

東京慈恵会医科大学医学部へ進学

現役時の反省から寮生活で勉強に集中。家族のサポートも励みに

「何とかなるだろう」と

楽観視していた

高校3年時

有彌さん(以下、有彌) 父が医師だったので、自然と医学部をめざす流れになっていました。高校入学時点には医学部受験を意識していましたね。

詠子さん(以下、詠子) 夫の働く姿を見ていて医師という仕事は素晴らしいと思っていましたが、親として子どもの将来について特にメールを敷いていたわけではありません。

有彌 ただ、現役の頃は正直、医学部受験を甘くみていました。公立大学志望だったので、大学入学共通テストの5教科7科目と、1次試験の英語、数学、化学、物

理、2次試験の小論文と面接とい

うように、試験勉強は盛りだくさ

ん。そのうえ成績も悪いのに、高

校3年生の夏まで「何とかなるだ

ろう」と考えていたほどです。

詠子 内心、早い段階で「これは現役合格は無理かな」と思っていました。受験科目は多いのに家では22時以降、いっさい勉強をしませんでした。

有彌 それでも、現役のときは、平日は4~5時間、休みの日は自習室で6~7時間くらい勉強していました。

詠子 そんなにやつてた?

有彌 じゃあ、平日は3時間といふことで(笑)。浪人のときは1日12時間勉強して、名古屋市立大学と東京慈恵会医科大学、日本医科大学の3校の医学部に合格しました。

心を入れ替えて臨んだ東京の予備校での寮生活

詠子 浪人するなら医学部専門の予備校にということで、夫が富士

東京慈恵会医科大学に進学する」と決めました。

夫婦で悩みました。自宅が静岡県

なのと、学費を考えると名古屋市

立大学なのですが、やっぱり研修

先の病院が数多くあって、臨床の

症例も豊富な東京の大学がいいと

いう結論に。



足立詠子さん
(母)



東京慈恵会医科大学 医学部1年生
足立有彌さん
(富士学院OB)

授業は先生1人に塾生8人以下の少人数制で、先生と塾生の距離が近くて質問しやすかったです。この経験から積極的に質問する姿勢が身につき、今の大学での学びでも役に立っています。

詠子 審での浪人生活はどんな感じだったの?

有彌 朝は授業開始まで数学を勉強。その後少し昼寝をして、午後の授業が終わったらあとは、まず得意な物理と化学をやってテンションを上げました。それから苦手な数学や英語に着手するという感じでしたね。

詠子 夏休みの集中学習で苦手な英語の基礎力向上 小論文・面接対策も

詠子 何といっても課題は英語だったよね。

有彌 基本的な文法知識がおろそかで、さらに文章をSVOCといった文型を意識して読む習慣も

高校3年生の頃は正直、医学部受験を甘くみていました。

勉強のことは予備校に任せて、精神面のケアに専念しました。



医学部入試はこの数年が大きなチャンス 確実に合格するための情報収集を

**受験者数は
引き続き減少傾向
推薦入試は枠拡大で
より有利に**

2022年度の大学入試では、医学部の志願者に限らず、大学入学共通テストの志願者数も例年通りに減少しました。中でも既卒生の減少傾向が顕著で、2023年度はさらに減少する見込みです。これは少子化の影響のほか、コロナ禍やウクライナ問題など先の見通せない社会への不安感から、浪人を回避したいという受験生心理があるためとみています。こうした動きは、今後さらに医学部受験生の減少を加速させるのではないかと懸念しています。

2022年度入試を具体的な数

字で見てみると、国公立大学の医学部では、前期・後期合わせた志願者数は2万2340人と前年度より457人増え、一応下げ止まりは見せましたが、受験者数は前年度より442人減って1万3220人にとどまりました。一方、私立大学の医学部では一般選抜および共通テスト利用選抜を合わせた志願者数は、9万666人と前年度より954人減少。受験者数も、前年度より1338人少ない8万2816人でした。2022年度は獨協医科大学と金沢医科大学がそれぞれ受験日を1日増やし、さらには、昨年多くの受験生がコロナ禍で控えた東京や都市部で受験する人の数が回復したにもかかわらず、それでもこれだけの受験生が減つて

いるというのが現実なのです。なお、近年の傾向として、優秀な学生を早めに確保したいという大学側の思惑から推薦入試の募集定員が年々増加しています。推薦入試では総合型選抜・学校推薦選抜ともに出願するにあたっての条件があり、受験生の数はそもそも限られています。そのうえで募集定員が増えているのですから、合格のチャンスはますます増えることになります。

実際に私立大学医学部の2022年度入試では、一般選抜の倍率11・5倍に対して学校推薦型選抜（総合型含む）は5・2倍と、明らかに推薦入試に有利な結果となっています。出願資格を満たす受験生にとっては魅力的な選択肢となるでしょう。

2022年度の共通テストは難化傾向は変わらず

センター試験からの移行2年目となった2022年度の大学入学共通テストは、平均点が高かつた前年度の反動もあり、かなり難化しました。特に数I-Aおよび数II-B、生物に関してはかなり平均

点が下がりました。2023年度は生物など一部の科目で振り戻し的に易化することはあっても、思考力・判断力・表現力を問う試験問題の傾向や全体的な難易度は大きくは変わらないのではないかとみています。

例えば数学の問題でも、数学の知識そのものを問うというよりは、問題文を読み解く力が求められるような問題が多く出題されています。共通テスト対策としては、そうした読解力を含め、思考力・判断力・表現力をバランスよく伸ばしていく学習を心がける必要があるでしょう。

**私立大学にも
学費減免制度あり
積極的な情報収集を**

受験者数が減っているとはいえ、仕事としてのやりがいや将来の安定性などの面で、医師を志す若者はまだ多くいます。ですが、そのような高校生が医学部をめざそうとしてネットになるのが、学費の高さです。国公立大学は他学

部と同様ですから学費も安く済みますが、そのぶん倍率も高く狭き門となっています。国公立の医学部に合格できなかつた生徒が浪人せずに他学部に進学し、医学への道を諦めるというケースも少なからずあるのです。

一方、一般的に学費が高額になる私立大学においても、大学ごとに特待生制度を設けたり、都道府県と連携しての奨学金制度を整備したりして、志ある優秀な学生を確保しようとする動きが見られます。場合によっては国公立並みかそれ以下の学費で医学部に進学できるケースもありますから、そうした情報も積極的に収集することをおすすめします。

将来的には 定員減の可能性 今後2年間が 大きなチャンス

現在、厚生労働省と文部科学省の分科会「医療従事者の需給に関する検討会」では、医学部定員の削減を視野に入れた議論が交わさ

れています。まだ確定ではありませんが、2024年度、今の高2生が受験するタイミングまでは定員が減ることはないと思われるものの、2025年度、すなわち今のが高1生が受験する年度には医学部の入学定員が絞り込まれる可能性があります。

全体的な医学部受験者の減少傾向を鑑みると、医学部志願者にとっては、この1~2年が医学部合格の大きなチャンスということになります。このタイミングを逃さず、確実に医学部合格を勝ち取ること

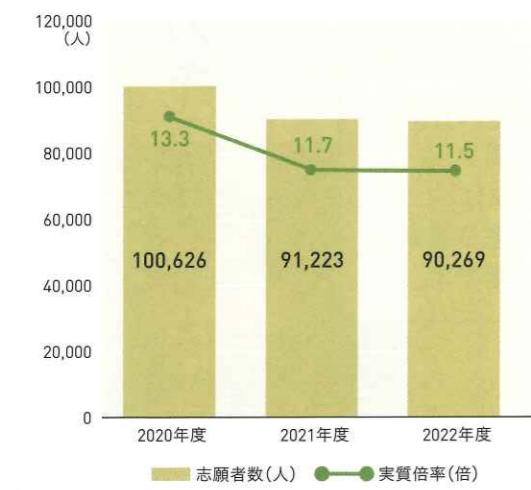
性が合わなければ合格できないこ

とがよくありますし、その逆もまた然りです。自分にとつていちばん合格が見込める大学はどこなのか、そこに合格するために必要な学習はどういうものか、そうした戦略を具体的に立てることが重要です。そのためにも適切な情報収集は欠かせません。学校のほか塾や予備校も含めて、医学部受験の学習環境に一日でも早く触れ、そのうえで学習を進めていくことは、確実に医学部合格への第一歩となります。

**環境で人は変わります。
医学部合格のいちばんのポイントはズバリ
“学習環境”です。**

富士学院 学院長
坂本友寛さん

私立大学医学部一般・センター(共通テスト)
利用入試の志願者数と実質倍率の推移



出典◎富士学院「医学部入試概況」
※2022年度入試は、2022年1~3月実施の入試